

案件名	(仮称)町田市里山環境活用保全計画(案)
氏名	とくていひえいりかつどうほうじんまちだゆいのさと
	特定非営利活動法人まちだ結の里
住所	東京都町田市下小山田町 824-1
電話番号	080-7465-7651

特定非営利活動法人まちだ結の里の前身団体は 2005 年からその活動をはじめ、2007 年から主な活動の場所を「奈良ばい谷戸」として、「荒れた里山」を農的手法によって里山環境を再生し、現在は保全、維持に努めています。再生された里山では景観が蘇っただけでなく、700 種類を超す植物や貴重な水棲動物などもみられるようになり、現在もその調査・保護を継続しています。これらの努力と成果は「関東・水と緑のネットワーク拠点 100 選」(公財)日本生態系協会、「生物多様性保全上重要な里地里山」環境省、「にはんの里 100 選」朝日新聞社・(公財)森林文化協会にも選ばれていることに表示されています。

2021 年 12 月での会員数は 76 名(うち過去 4 年間に入会したものは 32 名(42%))、2020 年度は 130 日の活動日に延べ 1,874 名の会員が活動に参加しました。また市民を交えた「里山散策と農業体験」などを通じて広く里山の魅力を伝える活動をしています。

「地元農家」「行政」「市民」という三者協働による里山再生を目指しています。

【ご意見記入欄】

P4 1.計画策定の目的

- 第一段落に「町田市は多摩丘陵の北の端に位置し、北部の丘陵地は鶴見川、境川の源流域にもなっており、都市の近郊でありながら、豊かな自然環境を有しています」とありますが、豊かな自然環境とは何なのか具体的に記載してください。

「谷戸には動植物など生物の多様性が保全され、豊かな自然環境が残されています」など

- 第二段落には『これまで「町田市北部丘陵活性化計画(基本計画・実施計画)」及び「町田市北部丘陵活性化計画アクションプラン(行動計画)」に基づき、北部丘陵に特化した里山環境の「再生と保全」を推進してきました』とあり、第四段落では「本計画では、こうした地域の資産・資源を有効に活用し、持続可能なものとしていく施策を効果的に推進していきます」とあります。しかし **P15 1.対象地域の現状**においては、「荒廃した山林や農地が増え、現在では以前のような里山の環境はほとんど残っていません」とあります。ここで記載されている認識からすると、「地域の資産・資源を有効活用」より先に里山環境の「再生と保全」が引き続き必要になると考えますが、市の認識をお聞かせください。
- 第五段落の「多様な主体による連携・協働により里山環境を活用していくこと」の部分ですが、前

述のコメントから「里山環境を再生・保全・活用していくこと」に変更することを提案します。

P5 3.計画の位置付け

- 『「町田市北部丘陵活性化計画」の取組等を引継ぎ、里山環境や地域の資源の活用を推進していくための計画とします」とありますが、何を引き継ぐのか、何を引き継がないのかを明確にしてください。
- 本文の下の図にも「町田市北部丘陵活性化計画」の位置付けを明示してください。
- 「町田市北部丘陵 里山環境維持保全実施計画」（2016年）の扱いが明示されていないので明確にしてください。

P10 (3)市全体でみどりを活用しながら総量を減らさないための取組を進めている

- 「みどり」の中身について、公園などの画一的なみどりと再生・維持されている里山の豊かな植物相のもたらすみどりが区別されていません。本計画（案）では生物多様性の重要性について言及されていませんが、里山の育むみどりは生物多様性の維持に貢献し、自然との共生を可能にすると考えますので、その点も明記してください。

P14 第2章 現状と課題

- 「里山とは」で始まる部分は町田市の里山の定義と思われませんが、本計画（案）において、町田市の考える里山とは何か、資源とされている里山環境とはどのようなものなのかの定義を明示願います。

P14 2.対象地域の課題

- 「里山環境が荒廃している要因としては、山林や農地を管理する住民の経済的な負担の増加や高齢化、市内で活動するボランティア等の団体メンバーの固定化による高齢化や活動の担い手不足などがあげられ、かつての里山環境の再生を目指すことでは解決の糸口が見えない状況があります」とありますが、ボランティアの活動のあり様が荒廃の要因の一つとされることには納得しがたい。
- また「固定化による高齢化や活動の担い手不足」を裏付ける調査報告等があれば紹介ください。もし無いのであれば、全体を言い切った表現からもっと適切な表現に修正してください。（まちだ結の里では、過去4年に入会した会員は全会員の42%を占めているという事実があります）。
- 「かつての里山環境の再生を目指すことでは解決の糸口が見えない状況があります」とあるが、里山の環境そのものが再生され保全・維持されていなければ、本計画（案）で考えられている活用も芯のないものとなってしまふと懸念します。ボランティア活動だけでは北部丘陵全体の里山の荒廃を止

めることはできませんが、少なくとも里山の生物の多様性を再生し維持してきたエリアでの活動は、これからの方向性の一つの基本的なあり様として重要と考えます。（「奈良ばい谷戸」では、「荒れた里山」を農的手法によって里山環境を再生し、現在も保全、維持活動が続いています。再生された里山では景観が蘇っただけでなく、700種類を越す植物や貴重な水棲動物などもみられるようになり、現在もその調査・保護を継続しています。）

- 「来訪者のマナーやモラル向上にあたっては、里山環境の魅力を適切に発信するとともに、地域の住民と来訪者にとって良い関係性を構築することが必要になります」とありますが、里山で活動する人、団体の努力だけではなく、来訪者の行動、思考変容も必要と思われるので、その点も指摘していただきたい。
- 「地域の住民だけでなく、民間事業者など多様な主体と連携し」とありますが、参考になりそうな事例を明示願います。
- 課題だけに触れてあり、現状でもうまくいっていることや強みについては触れられていません。冒頭にて紹介しましたように、荒廃した里山を再生し保全、維持している活動もあることを記してください。今の表現だけを見た市民は里山という場所は課題だらけで、その解決に人的・財政的資源を使うことに躊躇する恐れを心配します。強み、誇りも併記して、里山の本当の姿をバランスよく表現してください。（「奈良ばい谷戸」では、「荒れた里山」を農的手法によって里山環境を再生し、現在も保全、維持活動が続いています。再生された里山では景観が蘇っただけでなく、700種類を越す植物や貴重な水棲動物などもみられるようになり、現在もその調査・保護を継続しています。）

P16 2. 対象地域の課題

- 下段に写真付きで「里山環境の再生活動が行われる前の谷戸」と「里山環境の再生活動が行われていた現在の谷戸」が紹介されていますが、後者は「行われていた」と過去形にするのではなく「里山環境の再生活動が進行している現在の谷戸」に改めてください。

P17 3. エリアの区分

- 町田市全体の里山環境活動保全計画が示されていないなか、この4つのエリアを抽出し今回の対象とした理由・背景をお聞かせください。
- 地域分けの問題で小野路と小山田を分けていますが、小野路の歴史環境保全地域および奈良ばい谷戸を中心とした地域は小山田との緑の連続性が強くあります。鎌倉街道で緑地としては大きく分断されていると思いますのでし分けるのであれば、分け方の再考をお願いします。

P19 4. エリアごとの現状と課題【小山田エリア】、P21【小野路エリア】

- 「里山環境を活用する担い手の支援と活動基盤の整備」に「民間資金の導入」「民間事業者等と連携・協働」とありますが、同様に必要と思われる市の財政支援、人的支援についても明記してください。

P22 4.エリアごとの現状と課題

- 【三輪エリア】においては「市民活動団体の方々が町田市との協働による緑地保全活動を行っています」とありますが、【小野路エリア】の奈良ばい谷戸の活動や他のエリアの活動も三輪と同様に記載してください。

P30～P31 1. 町田市全体の取組（重点事業）

- 「重点事業1 山林と農地の再生と活用」のなか「達成目標」である「新たな山林再生に着手した面積」の原状値が0(m²) となっていますが、これまで「町田市北部丘陵活性化計画」で取り組んできた面積を原状値とするのが適切であるように思えます。重点事業2, 3では原状値は現況となっています。
- 同「重点事業1」の中ですが、雑木林・農地が一体となつての里山であり、「携わる団体が協同し里山として一体性のある再生が行われるよう取り組みます」と追記してください。
- 「重点事業2 活動に参画する団体や企業・個人など、担い手の確保と支援」のなか「達成目標」の「活動に参加する団体数」の定義を明示ください。企業・個人も支援するのであれば、団体数だけが目標にはならないように思えます。
- 「重点事業3 まちだの里山の戦力的な情報発信」のなかで「達成目標 まちだの里山の来訪者数」はどのように計測しているのか明示してください。おそらく小野路宿里山交流館への訪問数だと想像しますが、当施設を利用するのは一部の来訪者であり、全体を示してはいません。数万人のために人的・財政的資源を使うことに理解を得るのは難しいと考えるので、指標を変更するなど見直しをお願いします。
- 3つの「達成指標」はどのように設定されたのかを明示してください。もしロジックモデルのような手法を採用されるのであれば、達成の定量的評価がしやすいと考えます。

P39 3「町田市の役割」

- 農地、山林など相続の際に、里山の一部が資材置き場、駐車場や墓地などとなれば、里山の資源としての価値は大きく損なわれます。未来の町田市民に緑地をしっかりと残すため、市として緑地保全地域の指定、相続への対応、大手民間業者が所有する土地の買い取りや借り受けなど市でなければ出来ない制度面からの保全について検討してください。

「奈良ばい谷戸」について、都市緑地法に基づいた特別緑地保全地区の指定に向け東京都と協議してください。

P10 「(3)市全体でみどりを活用しながら総量を減らさないための取組を進めている」、P12 「(4)人口減少社会での土地利用への変化への対応」の具体的な方策の一つになることを期待します。

- 「北部丘陵活性化計画」では北部丘陵の拠点と回遊のネットワークとして、「奈良ばい谷戸」にも交流・回遊の拠点をつくることになっていましたが、本計画（案）ではそのことについて触れられていませんので、北部丘陵活性化計画に変更があるのかも含めて明示してください。
- コーディネートとか連携強化など抽象的な表現になっていますので、具体的な責任、役割を明示してください。
- 市の中でも、農業振興課など中心になる組織があると思いますので、それを明示してください。
- 市以外の他のステークホルダーの役割、責任も明示して、この計画が市だけの計画だけでなく、関係者が深く携わる必要のある計画であることを文章化してください。
- 本計画（案）が推進されるためには、関わる人（市民）の増加が必要と考えます、現状は各組織に任されている形の「里山保全の担い手の教育・研修の場の構築」を市が主導的に実施することを提案します。
- 現状の農業に関わる方の中でも、今の農業形態から里山の維持・保全を伴うような農業へ移行されたい方もいらっしゃると思います。それらの方に農業研修ができるような仕組み作りを市が主導的に取り組むことを提案します。（伝統的な農的管理手法を伝承する教育・研修の場の構築等）
- 里山の保全管理活動をしている団体や、近隣農家が協働で里山の環境保全につながる事業を実施したいと計画する時に参考になるよう、主に林野庁などが実施されている補助金・助成金事業を紹介するリーフレット等を市が作成し、利活用できる仕組みを構築してください。

全般として

- 本計画（案）が町田市全体/市民全体に対して向けられた計画ではなく、地域限定のものとなっています。町田市全体の里山環境の現状と課題についての認識を示し、全市民に開かれた計画（案）の策定を検討願います。例えば **P12 (6)グリーンインフラの活用が進められている**とありますが、どれくらいの市民が望んでいるのかとの疑問があります。

- 現状分析の一つとして市の財政の中で当事業に関わる財政割合を示して、その大きさ（あるいは小ささ）を市民に理解してもらうことはどうかと提案します。
- 関連して、当事業に向けた予算獲得への意気込みも何らかの方法で示すことは出来ないでしょうか。重要事業と定義するので全予算の何%は確保するとか、国の骨太の方針のようにそこに入ればある程度の予算は獲得できるなどのようなものを期待します。
- (仮称)町田市里山環境活用保全計画策定検討委員会の委員ではないまちだ結の里ではありませんが、里山活用・保全を担当する団体の一つでもありますので、素案がまとまる前の段階での事前ヒアリングを次回は検討してください。
- (仮称)里山環境活用保全計画推進委員会には学識経験者として植物・動物の研究者、文化財の専門家を含めてください。この地区をある程度の期間、研究している方を希望します。

以上